様式第２号

視察研修先	鳥取県米子市議会	氏名	太田　芳彦
視察研修項目	皆生みらいの灯り推進事業について		

＜市の概要＞

米子市の歴史は古く、約2万年前の後期旧石器時代と呼ばれる頃で、市内諏訪地内で石器が発見され、旧石器時代の遺跡が確認されている。

縄文時代前期（約6,000年前）になると、遺跡が、市内の各地で見つかっている。

弥生時代の前期（2,200年前）には稲作が始まり、山陰でも最古の水田の跡が発見された。

米子は海陸交通の条件に恵まれ、産業・経済の重要な役割を果たし、寛永以降、商業の町としてその地位を高めてきた。

明治22年（1889年）に「米子町」として町制を施行したが、町勢の進展に伴い、昭和2年（1927年）に市制を施行し、以来、周辺の町村との合併を重ねた。

そして、平成17年（2005年）3月31日に旧米子市と旧淀江町が新設合併を行い、今日に至っている。

人口が145,348人で議員定数が26人で形成している。

＜視察内容＞

１．皆生温泉「みらいのあかり」コンセプト

①海側から見える夜景の改善

砂浜と海岸線と旅館が形成する「シーサイドを見通すビスタ」そのものが皆生温泉ならではの魅力。現況の遊歩道照明設備を改修し、砂浜や波涛を照らし日本屈指のシーサイドリゾート景に磨き上げる。

②視点場の照明整備

皆生温泉の誘客を支えてきたホテルや海岸からの「海の眺望」これからは、昼の眺望だけでなく、遊歩道や公園から「夕刻から夜に、生みを眺められる」「波音を楽しみながら佇める」など、佇める視点場や座れる場所のあかり整備を行う。

③飲食の漏れ光を獲得したい

世界の海洋リゾートに不可欠な海側からの飲食アクセスを皆生温泉で実現することを目指す。海側遊歩道からアクセスできる「食」が実現し海側がフロントになれば、遊歩道の夜間の印象は大きく改善し、様々なあかりのおもてなしが可能になる。

④海をバックにした撮影スポットの整備

昼夜を問わず来街者に撮影の楽しみを提供するモニュメントを計画し夜間には色光等で演出。

⑤海浜アクティビティを支える電源整備

今後期待される様々な海浜アクティビティ・公園の使いこなしを支える照明設備と電源を計画する。

⑥路面が明るく歩く楽しさのある遊歩道へ改善

海岸遊歩道を安心して歩ける道に、歩く楽しさ歩く発見の提供、海からのビスタを阻害しない照明。

２．照明手法について

①あかりの色（色温度)・・・・温泉街にふさわしい電球色への統一

②最適な配光・・・・道路照明は、窓辺に眩しくなく、路面は明るく

③まちの特徴を活かす・・松、ランドマーク・彫刻をライトアップし風景を創る

④各旅館の滲みだし・・・海側のにぎわいに寄与する事業や効果の探索

⑤公園の活用・・・・今後の活用を想定した照明・電気設備計画

⑥鉛直面の明るさ感・・・安全安心に寄与するライトアップの効果

⑦通りの美的価値創出・・・中心街路にふさわしい印象を光の効果で創る

⑧照明制御・・・夜間景観を担保したまま省エネルギーに配慮

⑨界隈のつながりを視覚化・・・共通のあかりを灯す

●感想

皆生温泉エリアは、コロナ禍を経て、「観光客のためのまち」から「地元住民も豊かに過ごせるまち」を目指してがんばっているようです。この春に一部が完成した街頭のリニューアルをはじめ、地域が一体となって進める様々な取り組みが功を奏し、観光客もコロナ前まで回復とのことで一生懸命さが伝わってきました。

様式第２号

視察研修先	島根県松江市議会	氏名	太田　芳彦
視察研修項目	MATSUE起業（エコシステム推進事業）について		

１.背景「事業立案からこれまでの流れ」

＜2020年＞

松江市総合計画・総合戦略推進会議地方創生推進事業部会にて、なぜ松江からベンチャーが生まれにくいのか、という問題提起がある。地方創生の観点からも地方発ベンチャーの創出が重要と位置づけ、2021年度に調査事業費を予算化。

＜2021年度＞

松江市では、2021年6月から当地におけるスタートアップ・エコシステムのあり方に関する調査を開始し、市内の支援機関や教育機関との意見交換を行ってきた。松江市は調査結果を取りまとめ、2022年3月にMATSUE起業エコシステム構想を策定し、同月28日に市内の産学官金の関係機関とともにMATSUE起業エコシステム推進会議を設立。

＜2022年度＞

2022年4月からは、チャレンジャーがいつでも気軽に参加できるコミュニティ「MIX」の運営としない高校生・大学生を対象としたアントレプレナーシップ教育「2022キラボシプロジェクト」の２事業中心に事業を展開。

2023年1月31日産学官金の連携組織「MATSUE起業エコシステムコンソーシアム」を設立。

＜2023年度＞

2022年度に引き続き、コミュニティ「MIX」の運営を核とした企業等支援、アントレプレナーシップ脅威については「しまね未来共創チャレンジ」と統合。

2.基本構想

・「チャレンジャーファースト」で「ノウハウ」×「カルチャー」を提供する

・「MATSUE起業エコシステム」を形成して松江ならではの起業・新ビジネス創出の好循環を実現する。

＜目指す姿＞

2030年松江発産学官金連携モデルによる起業・新ビジネス創出の好循環

～起業家精神をもつチャレンジャーが本気で挑戦できる環境をつくる～

＜MATSUE起業エコシステムで提供するもの＞

① 本気のチャレンジャーのための出口を意識した実践ノウハウの提供

：志の高いチャレンジャーに対して、産学官金が連携し、一気通貫で最後まで伴走支援します

② あらゆるチャレンジャーのためのコミュニティの提供

：気軽に参加できるコミュニティ、初めの一歩の案内、サポーターとの出会いの場を提供します

③ チャレンジャーを生み出すカルチャーの醸成

：チャレンジすることが当たり前になるよう、学びの機会の提供、機運醸成や環境整備を行います

＜基本姿勢＞

一人ひとりの新たなチャレンジを全力で後押しする“チャレンジャーファースト”

３．MATSUE起業エコシステムコンソーシアム

2023年1月31日にコンソーシアム設立総会及び特別イベントを実施した。

・コンソーシアム正会員19団体と赤浦顧問が参加

・議案は全て可決。会長に松江市長、副会長に松江商工会議所、監事に島根県、(公財)・しまね産業振興財団。

●感想

人口減少が続く松江市（2000年：21.2万人（ピーク）2020年：20.4万人2060年：15.5万人（推計）により目標を18万人に設定。若い世代の「住み続けたい」「戻りたい」のために、若い世代に「選ばれるまち」「夢に超できる」「夢が実現できる」「夢が応援される」ことで①起業・創業新ビジネスが生まれる②雇用が生まれ若者の転出減・転入増③松江が元気で魅力的にすることで2060年には人口18万人を目指すアクションプランでどこの市町村も人口減少に歯止めをかける政策に頑張っているようです。

様式第２号

視察研修先	島根県出雲市議会	氏名	太田　芳彦
視察研修項目	縁結びデジタルプロモーション事業について		

１.出雲市の概況

出雲市は、島根県の東部に位置し、北部は国引き神話で知られる島根半島、中央部は出雲平野、南部は中国山地で構成されている。出雲平野は、中後山地に源を発する斐伊川と神戸川の二大河川により形成された沖積平野で、斐伊川は平野の中央部を東進して宍道湖に注ぎ、神戸川は西進して日本海に注いでいる。日本海に面する島根半島には、海、山、平野、川、湖と多彩な地勢を有している。水と緑の自然が豊かなまちであり、ぶどう、柿、いちじく、出雲そば、島根ワイン、出西しょうがなどの特産品が有名です。人口は173,136人で面積が624.32㎢で産業別には第3次が66.2％と半数以上を占めている。議員定数が30人で現員数29人で成り立っている、

２. 縁結びデジタルプロモーション事業の目的・全体概要

これまで出雲市は出雲シティセールス事業として、縁結び情報発信や産業観光情報発信等プロモーション事業を展開してきた。令和３年度からはインターネット上に掲載する動画広告から、幅広い層を専用ウエブサイトへ誘導することで、出雲市への興味を高めてもらうきっかけをつくっている。総括事業では、出雲の潜在的なファンをターゲットにインターネット広告を配信し、出雲市の総括専用ウェブページ（ランディングページ）へ誘導する。遷移先のランディングページでは、各人の興味・関心に応じた情報を掲載し、出雲市への興味・関心を高めてもらうことで、定住人口、交流人口の増加につなげる。

３.令和４年度における観光誘客推進のための主な取り組み内容

①縁結びプロモーション事業（観光デジタルマーケティング）

出雲市の魅力を紹介したプロモーション映像等を活用し、インターネット広告を通じて積極的なデジタルプロモーションを行うことによって、旅行の目的地としての出雲市の知名度向上、観光客の増加等推進することを目的とする。

②観光振興事業

※地方創生推進交付金（一部）

観光イベントへの支援や大社交通渋滞対策等を実施し、観光振興を図る。

ア)「第 17 回出雲神話まつり」＜R4 年予算額：14,000 千円（市負担金）＞

[出雲盆踊り]

※R４コロナにより中止

[花火大会]

※R４は「がんばろう出雲」応援花火

・日時：令和４年８月 28 日（日）18：00～20：50

・来場者：３万人

イ）出雲食文化 PR 事業
〇概要：市内の観光・商工団体や民間事業者を中心に組織された「出雲戦略会議」と協働し、「出雲そば」「出雲ぜんざい」など出雲の個性ある食を活用した全国への情報発信やイベント開催などにより出雲のブランド力の向上、観光・産業振興を図る。
〇内容：食文化 PR（全国各地への出店など）、機運醸成・人材育成（全国高校生そば打ち選手権大会出場支援）
ウ）「出雲そば旅」＜R4 年度予算額：2,000 千円（市負担金）＞
〇目的：出雲市の特産品である出雲そばを全国に PR し、交流人口の拡大を図るとともに、そばを通じて新たな地域・産業振興を図る。
エ）大社交通渋滞対策
〇事業概要：警備員配置、交通規制、無料シャトルバス運行、臨時駐車場確保、駐車場満空情報・渋滞長の情報発信、郊外駐車場への誘導
オ）宿泊機能強化対策事業補助金＜16,200 千円＞
〇事業概要：新たな宿泊施設（ホテル・旅館）の建設、又は既存施設の増築又は改築を促す支援制度により市内の宿泊機能の強化を図る。
●感想
出雲市では多岐にわたって事業を展開しており、頑張っているようですが、すぐに結果が見えるものでなく、苦労しているようです。又、いろいろな部署が関係しており、横の繋がりに少々問題があるのかなと思わせる内容でした。